

# かながわの

2015

# 学びづくりプラン

平成 26年度の「かながわ学力向上シンポジウム」では、県内 2 地区の実践発表についての意見交換において、「学力のとらえ」と「家庭学習について」など、幅広い議論が行われました。

## パネルディスカッション

<テーマ> 「小・中学校における学力向上に向けた取組の成果と課題」  
～子どもの実態に目を向けて、チームで取り組む学びづくり～

### 家庭学習について

「宿題をすることの意義」は多様。しっかりとねらいを持ち、学校・保護者・子どもの間で共通理解することが重要。

「宿題」を通して、家庭学習の習慣をつけるという意識を子どもや保護者に持ってもらう働きかけをすることも必要。

「なぜ学ぶのか」「どう学ぶのか」という問いについて考える必要がある。



### 来場者の声

確かな学び、基礎・基本について考えさせられました。

学校・家庭・地域と連携しながら、いかに子どもたちに学習意欲を高められるか、今後の課題として非常に参考になりました。



今の自分の立場から、子どもたちのためにできることは何か。もう一度考え直し、まず、やってみようと思います。

生きて働く力としての学力観を共有していくことが「学力」向上の取組の前提となるべきだと思いました。

# 改めて「基礎学力」を問い直す

## パネル・ディスカッションから

～反復練習に「活動の意義」を！「考え方の基礎・基本」も大切！～

青山先生は、パネルディスカッションの中で、こう指摘していました。



学校の授業でも、家庭学習でも、基礎的な学力をどうつけるかが大きな課題であることは間違いありません。しかし、ただの繰り返し、反復練習をさせればよいのではなく、その活動をするための意義を感じながら進めることがなにより大切です。

これを受けて、池田先生からは、次の指摘がありました。



「基礎的な学力」をどうとらえるか。「読み・書き・そろばん」だけではなく、「考え方の基礎・基本」が大切です。 「以前習ったことで使えそうなものはないかな」と考えることや、自己評価できること、自分を見つめる、振り返ることができるようになることが大切です。

○「基礎学力」は、単独で身に付けることのできるものではなく、「活用すること」とセットでとらえる必要があります。

○そのためには、子どもたちを学びの主体者とし、自身に「学ぶ意義」を実感させることが大切です。

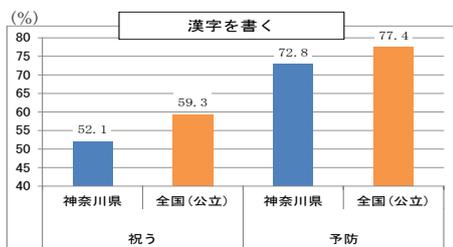
### やってみよう！ <改善の手立て>

基礎的・基本的な知識を身につけさせるために、反復練習に加えて……

- 学校や家庭において、既習事項を適切に使う場面をより増やしていく。
- 積極的に実生活における事象との関連を図った授業を行う。

などの工夫・改善に取り組みましょう！

## 全国学力・学習状況調査の結果から 一課題がある事項として…

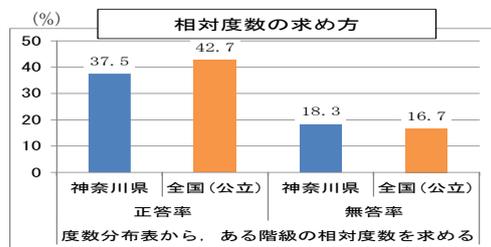


平成 26 年度 小学校 国語 A 問題

学年別配当表に示されている漢字を書くこと

- ☞ 漢字を書く設問(全 3 題)
- 祝う (52.1% 全国: 59.3%)
- 予防 (72.8% 全国: 77.4%)

※「祝う」は全国の平均正答率より 7.2%低い。  
 ※「予防」は平成 20 年度に同一問題が出題され、平均正答率: 59.7%、全国: 63.0%であった。



平成 26 年度 中学校 数学 A 問題

度数分布表から相対度数を求めること

- ☞ 生徒 60 人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める設問
- (正答率: 37.5% 全国: 42.7%)
- (無答率: 18.3% 全国: 16.7%)

※平均正答率は全国と比べ、5.2%低かった。  
 また、無答率も全国に比べ高かった。

# 家庭学習のあいかた

## パネル・ディスカッションから ～宿題の出し方にも“ひと工夫”を！～

◇家庭学習を促すためには、どんなことに気をつけたらよいのでしょうか。

池田先生は、パネルディスカッションの中で、こう指摘していました。



家庭学習では、「家で勉強する時間を作り、習慣をつける」「励ましの言葉をかける」「とりあえず机に向かう」など、どれも大切です。その際、子ども自身が宿題をしている理由、目的を理解することが必要なのではないでしょうか。例えば、算数について、答えに至るまでの考え方がら通りあったとします。「いろいろな考え方で答えを求めてみよう」という宿題を出したとしたら、その意義や目的も子どもたちに明らかです。どのような投げかけで宿題を出すかにより、宿題をする意義がみつかるのではないのでしょうか。

○学校と家庭が協同して子どもを育成するために…

学校は家庭学習の意義を伝え、家庭は学校からのメッセージを受けてとめていく！

## Let`s challenge！課題解決教材 ー家庭学習にぜひ活用してくださいー

県教育委員会の作成した「課題解決教材」は、学習状況調査（4月実施）後に見えてきた県下の子どもたちの学習課題を解決するための練習問題やワークシートです。子どもたちが、自分の苦手分野の解消や反復練習を行うのに役立ちます。家庭で一人でも取り組むことができるので、家庭学習の課題としてご活用ください。

国語の漢字の読みはできたけど、書く練習をくり返しやって、文の中で生かせるようにしたいな。

社会の県名やその位置については、答えられない都道府県があるなあ。白地図を使って記入してみよう。

算数では、計算は得意だけど、式や図に表すのが苦手だなあ。

理科では、もっと正しい器具の扱い方を知って、大好きな観察・実験に取り組もう！



ひとりでもできる！  
学校でも、家庭でも！  
何度も繰り返しできる！  
著作権フリー！

課題解決教材

○ 検 索



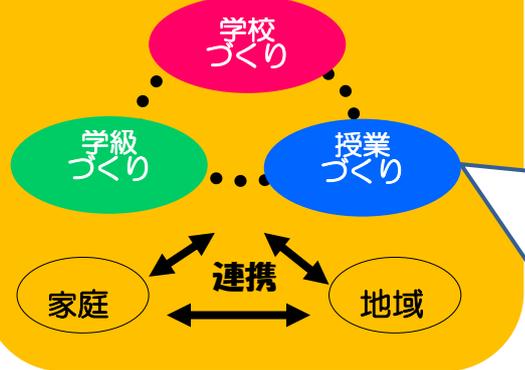
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417579/p472981.html>

# これからの神奈川の学びづくり

## すべての子どもにわかりやすい学びを！ ～インクルーシブ教育の推進～

支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び、共に育つことをめざします。

### インクルーシブな学校



### インクルーシブな授業づくりの視点

- 学習活動は、すべての子どものために計画されています。
- すべての子どもにとって、わかりやすい授業が行われています。
- すべての子どもが、授業中何をすればよいかわかっています。
- 子どもたちは、自分からすすんで学びます。
- 子どもたちは、お互いから学びあいます。
- 子どもたちは、お互いに教えあいます。

## 小中の連携をより充実させていくために！ ～小中一貫教育の導入・推進～

○「小中学校で「教職員同士」をつなぎ、「子どもたちの学び」をつなぎ、義務教育9年間にわたる連続性・系統性を大切に学習指導、生徒指導の実施により「確かな学力の向上」や「豊かな人間性の育成」等をめざします。

○今年度、3 地区でモデル校を指定し、実践研究の成果や課題を整理し、情報を発信していきたいと考えています。

### ○今年度のモデル地区(中学校区)

今年度は以下の3中学校区で、小中一貫教育について取り組んでいます。

市町村	中学校区	学校名	モデルの型
海老名市	有馬中学校区	有馬中 有馬小 門沢橋小 社家小	隣接と分離の併存
秦野市	北中学校区	北中 北小	隣接型
箱根町	箱根中学校区	箱根中 湯本小 仙石原小 箱根の森小	分離型(町全体)

◇学びづくり推進地域をはじめ、県内では地域の特色、子どもたちの実態を踏まえた授業研究が盛んに行われています。他校の実践から学ぶことはたくさんあります。全県や地区でのシンポジウムに参加するとともに、ぜひ、他校の研究会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

### 平成27年度 かながわ学びづくり推進地域及び研究委託校

【鎌倉市】第二小、第二中 【藤沢市】善行小学校・善行中学校

【寒川町】寒川小、一之宮小、旭小、小谷小、南小、寒川中、旭が丘中、寒川東中

【海老名市】有馬小、門沢橋小、社家小、有馬中 【綾瀬市】落合小、土棚小、春日台中

【愛川町】中津小、菅原小、愛川東中 【大磯町】大磯小、国府小、大磯中、国府中

【南足柄市】北足柄小、南足柄小、福沢小、岡本小、岩原小、向田小、南足柄中、岡本中、足柄台中

平成27年4月発行 問い合わせ先 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課  
〒231-8509 横浜市中区日本大通 33 電話(045)210-1111 (内線) 8217